

議会報告会 実施報告書

実施日時	平成24年11月28日（水）19：00～20：26		
会場	北公民館	来場者数	17人
主担当班	D	北條正、力野豊、山本貴美子、常岡大三郎、高野新一	
		司会進行	力野 豊
		報 告	(1) 北條 正 (2) 高野新一
		パワポ操作・記録	常岡大三郎、山本貴美子
副担当班	A	別所治、佐々木真、今大地晴美、立石武志、宮崎則夫、岡武彦	

1 質疑応答及び意見

(1) 9月定例会の主な審議内容報告

特になし

(2) 議員定数についての検討状況報告

Q1：各常任委員会の人数は何人か。

A1：予算決算常任委員会は議長を除く全議員25人。他の3常任委員会は、9人の委員会が1つ、8人の委員会が2つである。

Q2：議員定数を削減した場合、議員の負担がふえるのか。減らすだけの議論は避けてほしい。

A2：多様な意見が出され、議員定数との関係も深い。

Q3：県内の他市議会の状況は。

A3：福井市は人口27万人に対し32人、小浜市は3万1千人に対し18人、鯖江市は6万8千人に対し20人、越前市は8万人に対し22人など。

Q4：どのくらい的人数が適切か。

A4：各議員それぞれの考えがあり、それも含めて検討中である。

Q5：1委員会7～8人という根拠がよくわからない。度々議員を減らすのは大変なので、2人じゃなく4人減らして22人にしてはどうか。

A5：地方自治を研究している大学教授の考え方を参考にしている。あとのことは御意見としてお聞きする。

意見：定数削減には反対。日本は人口に対する議員数が少ない。民意吸収が出来なくなる。ましてや、敦賀市は課題が山積しており今後議員の仕事は増えるであろう。数が少ないほうがスムーズに行くとは限らない。議員数が減ると年4回の議会の回数の問題も出てくると思う。

(3) 市民の市議会や市政へのご意見

Q 1 : 大学問題について、2年制から4年制への移行でうまくいくのか。

A 1 : 議会の中で特別委員会を設置して検討を加え、26年度開学に向けて理事者と協議している。

市立敦賀病院の看護師不足と高度なレベルへの対応など、開学に向けた詳細な検討状況を聞いている。

Q 2 : 看護師不足など新聞で認知している。大学を卒業して敦賀の病院に就職した場合の優遇措置のようなものは考えられているのか。

A 2 : 委員会の中では、一定期間敦賀市内の病院に勤務すれば返済を免除するような奨学金制度を設置することを聞いている。

Q 3 : 新幹線の問題で、中池見との関係はどうなっているのか。

A 3 : 機構からは工事にあたり調査は行うが、ルートの変更はないと聞いている。

意見 : これからの北地区をどうするかについて区長をはじめ頭を痛めている。北地区の市長と語る会でもお願いするつもりだが、今後ともよろしくお願いしたい。

敦賀市議会議長 堂前 一幸 殿

平成24年12月18日

敦賀市議会報告会実施要綱第10条第1項の規定により提出します。

代表者 D班 北 條 正